

1. 授業のねらい・概要

教育相談は、生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付けることを目的とする。

2. 授業の進め方

前半は講義形式で、教育相談の基本的な考え方や基礎理論の講義、生徒や学校をめぐるさまざまな今日的課題、学校内外における教育相談の実践について解説する。続いてカウンセリングの諸技法、特に開発的技法について、スキルを身に付けるための授業を行なう。さらに、以上の知識を活かしながら教育相談の計画の立て方と進め方についての演習を行なう。

3. 授業計画

1. 学校における教育相談の意義と課題（教育相談の意義と理論 1） 2. 教育相談における校内での組織的取り組み（教育相談の展開 3） 3. 地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携や意義（教育相談の展開 4） 4. 教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念（教育相談の意義と理論 2） 5. 学校教育におけるカウンセリングマインド（教育相談の方法 1） 6. 生徒の不適応や問題行動等のアセスメント（教育相談の方法 2） 7. 生徒の諸課題に対する発達に応じた相談の進め方ーいじめー（教育相談の展開 2） 8. 生徒の諸課題に対する発達に応じた相談の進め方ー不登校ー（教育相談の展開 2）	9. カウンセリングの基礎技法ー傾聴スキルー（教育相談の方法 3） 10. カウンセリングの基礎技法ーエンカウンターー（教育相談の方法 3） 11. カウンセリングの基礎技法ーSSTー（教育相談の方法 3） 12. カウンセリングの基礎技法ーストレスマネジメントー（教育相談の方法 3） 13. カウンセリングの基礎技法ーピア・サポーター（教育相談の方法 3） 14. 教育相談の目標の立て方と進め方の実際ー生徒への対応ー（教育相談の展開 1） 15. 教育相談の目標の立て方と進め方の実際ー保護者への対応ー（教育相談の展開 1）
---	--

4. 到達目標

教育相談について、教職初任者レベルの必要な知識と、実践上の基礎的なスキルが身につくことを目標としている。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

前半（およそ第1回～第8回）の講義については、各種資料を読み解く予習・復習が求められる。主に後半に予定している演習的な内容については、与えられたテーマや課題に従って事前準備する時間が必要。（いずれも各回1時間程度）。

6. 成績評価の方法・基準

毎時間に提出を求めるミニレポート（60％）の提出状況、および期末レポート（40％）の提出状況および内容を合算して評価する。

7. テキスト・参考文献

使用しない（毎時間、資料を配付する）

8. 受講上の留意事項

演習では積極的な参加が求められます。